



2023年3月 発行

# これからどうしたいか、どう行動するか が問われる時代へ

2020年1月15日(水)、日本で初めて新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が確認されました。そして2023年1月27日(金)、岸田総理大臣が5月8日(月)より新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけについて今の「2類相当」から「5類」に移行する方針を決定したことを明らかにしました。コロナの感染予防対策が始まってから約3年が経ちました。これまでにみなさんは学校生活や日常生活でたくさんの制限の中で過ごしてきました。分散登校、マスクの着用義務、当時は初めて耳にしたソーシャルディスタンス、それぞれの授業による制限、そして何より従来の文化祭や体育祭、校外学習、学年レク、部活動の大幅な制限…。たくさんの不安の中での日々が続きました。そんな日々の中で、みなさんは与えられた環境と素直に向き合い、最善を尽くし、たくさんの素晴らしい経験を得ることができました。自分たちにとっての「当たり前」を貫き通す姿勢はとても輝いていました。

～コロナ禍のなかで…みんなの思い～ ※ネット上のアンケート参照

## 全国の中高校生

「何もやる気が出ないようになった」「理由もなくイライラすることが増えた」「ゲームやスマホを使う時間を増えた」「寝ていることが多くなった」「学力が下がる不安」「身近な人への感染が不安」

## 社会人の方々だって…

「収入が減った」「仕事(アルバイト)がクビになって収入がない」「在宅ワークに必要な環境(パソコン、Wi-Fi設備)が整っていない」

## 一方で、こんな意見も…

「家族との時間が増えて、会話が増えた」「家でできることが増えた」「新しいことにチャレンジできた」「マスクで表情が分かりづらいから、相手の気持ちを考えるようになった」「リモート会議またはリモート授業が可能となり、家でできることが増えた」(リモート対応は今後も継続していく?)

コロナの感染予防対応が「2類相当」から「5類」に変わることによって、今後変わっていくものと変わっていかないものがあると思います。これまで制限され、やってはいけないと言われてきた状況から解放され、マスクを外してさまざまな活動が可能となります。これは中学校生活だけに限ったことではありません、高校生活でも社会生活でも同じです。

## 新型コロナ対応

そんな今だからこそ、これからどう行動するのか、すべての人が問われています。  
みなさんは何をしたいですか？  
どう行動したいですか？  
当たり前のようにあった様々な行事が一旦リセットされて、再び復活しようとしています。  
みなさんがやりたいこと、やりたかったこと、やりたくないことは何ですか？  
大きく変わりつつある今だからこそ、何かを新しく始めたり、何かをやめたりする大きなチャンスです。ぜひ、自分で考えてみてください。  
クラスメイトや友人と話をしてください。  
そして、行動してみてください。  
改めて問います。  
コロナ感染予防対策が緩和される今…  
みなさんは何をしたいですか？  
どう行動したいですか？

現状		5月8日以降
新型コロナウイルス感染症 (2類と同様の措置)	分類	5類
発熱外来や指定医療機関	診療受け入れ	すべての医療機関 (段階的に拡大)
あり	医療費の公費支援	段階的に縮小
全例(簡略化)	感染者の把握	定点も検討
患者は最大7日間 濃厚接触者は 最大5日間	待機期間	なし
できる	入院勧告・指示	できない
できる	水際対策	原則できない
できる	緊急事態宣言	できない
屋内は着用推奨	マスク	個人の判断(時期は未定)

※厚生労働省の資料などを基に作成

## いよいよ1年間の締めくくりです。

3年生は卒業まであと…9日。(3/1 現在)  
1・2年生は修了式まであと…15日(3/1 現在)



もうすぐ1年間の節目を迎えます。4月からは新しいスタートとなります。新しいスタートがしっかりと切れるように、どう終わるかが大切です。

何をどうすればいい？そんな不安を抱えているみなさんへ…

- 「凡事徹底」です。当たり前のことを徹底的にやることです。
- ・朝は自分で時間通りに起きていますか？
- ・朝食はしっかりとれていますか？
- ・8:25 までに教室の席について、継続に取り組んでいますか？
- ・授業の忘れ物はしていませんか？正しく受けられていますか？
- ・友人を大切に想って言動できていますか？
- ・自分を大切にできていますか？

「迷った時は、やめておく」という人がいるが、僕はそれとは正反対だ。「迷った時は、前に出る」これが僕の信条だ。

「幻冬舎」社長 見城 徹

心からの思いを、傷つくのを回避するために早々に引っ込めてほしくない。僕らは何かの結果のために今を生きているのではない。挑戦の一瞬一瞬が、本番の舞台だ。

漫画家 井上雄彦